

## ②平成 25 年度研修会 (H25.12.5、守山市コミュニティホール)

図表 12 平成 25 年度 研修会 (行政対象)

<p><b>若年認知症研修会 若年認知症ケアモデル事業実践報告</b></p> <p>2013年12月5日 地域包括支援センター</p> <p>藤本クリニック もの忘れ サポートセンター 藤本 喜代子 奥村 典子</p>	<p><b>若年認知症とは</b></p> <p>若年認知症とは65歳未満に発症した認知症疾患の総称で、40～50代の働き盛り世代の疾患のため、家庭や社会生活にさまざまな困難が生じます 札幌市・北海道若年認知症の人と家族の会作成冊子より引用</p> <p>若年認知症の原因となる主な疾患</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 脳血管性認知症</li> <li>2. アルツハイマー型認知症</li> <li>3. 前頭側頭葉変性症</li> <li>4. レビー小体病</li> <li>5. 進行性核上性麻痺</li> <li>6. 皮質基底核変性症</li> <li>7. ハンチントン舞蹈病</li> <li>8. 頭部外傷後認知症</li> <li>9. アルコール性認知症</li> <li>10. プリオニン病など</li> </ol>
<p><b>若年認知症研修会について</b> 本人、家族へのサポート就労継続支援と生きがい就労支援(仕事カフェ)等</p> <p><b>若年認知症ケアモデル事業実践報告</b> これまでの取り組み報告等(アンケートの結果やネットワーク会議での課題の整理)</p> <p><b>話題提供</b> (平成25年度 厚生労働省老人保健健康増進等事業に関すること等)</p> <p>今日はこのような内容を より混ぜてお話しします</p>	<p><b>若年認知症という病気はない</b></p> <p><b>若年認知症という病気はない</b></p> <p>認知症の原因になった疾患の特徴とそれぞれの個人の性格・心理状態・環境などに合わせた治療やケアや家族サポートをすることにおいて、高齢者と若年患者とで相違があるわけではない</p> <p>とはいっても、高齢認知症患者に比べても、一般社会だけでなく、医療・ケアスタッフやケアマネジャーなどの理解度が低い若年認知症患者やその家族の状況を改めて学ぶことは意義はある</p> <p>しかし、繰り返すが、等しく支援が必要であるという状況は高齢者と若年患者とで相違があるわけではなく、行うべきケアの原則も変わりない 若年から高齢者まで、軽度から重度・末期まで、すべての認知症患者や介護家族ができる限りその人の尊厳を保つことができるよう、社会全体で支えなければならない</p>
<p><b>若年認知症の特徴とは</b></p> <p>原因疾患が多彩である→疾患の理解</p> <p>他の精神疾患と間違われやすい→診断の重要性</p> <p>特徴的な症状が出現する疾患がある→疾患別ケア</p> <p>失語、失行、失認などの症状の出現が早いことがある →生活機能障害への支援</p> <p>進行が早いことがある→本人と家族への心理的支援</p> <p>抑うつ状態になりやすい→本人と家族への心理的支援</p> <p>易怒性が高いことがある→本人と家族への心理的支援</p> <p>(「認知症の医療とケア」2008年)より</p>	<p><b>若年認知症がかかる課題</b></p>
<p><b>もの忘れサポートセンター・しが 滋賀県若年認知症コールセンター</b></p> <p>「もの忘れサポートセンター・しが」では、老健認定への申請を済めり、「滋賀県若年認知症コールセンター」という名前を追加しました。若年認知症にて心配されている方々へ、家事・専門門・行方の方など、どうでもご相談にご相談ください。ご高齢の方たちに親身になってお聞きしてこれまでお電話下さい。お待ちしております。</p> <p>開院時から相談活動は行っており、その相談件数の多さや必要性に注目され、全国に先駆けて2005年4月に滋賀県の委託を受け、藤本クリニック内に「もの忘れサポートセンター・しが」を設置。2011年4月から滋賀県若年認知症コールセンターも設置され、介護相談と現地相談を行っています。</p> <p><b>介護相談実績</b></p> <p>相談の内容は「こんなときどうしたらいいか」が最も多いのですが、認知症の症状を丁寧に伝えることで、「どうしてそのようなことが起きるのかわからりました。症状なのですね」という言葉に変わります。起きている事は変わらなくても、理解できるところで気持ちが楽になるようです。</p> <p>若年認知症に関する相談件数 平成22年418件中68件 平成23年370件中80件 平成24年402件中135件</p>	<p><b>若年認知症の課題</b></p> <p>藤本クリニックの事例より</p> <p>就労の継続(退職せざる得ない状況) できないことやミスへの指摘→本人の落ち込み→抑うつ状態→できることもできなくなる</p> <p>できないことを認めざるえない状況→同僚との関係悪化→人が遠のく→独りぼっち</p> <p>できないことが話せない→自分の状況がわからない→頑張らなければ、怠けていると自分を追い込む→ストップがかからず身体の不調につながる</p> <p>家族には話せない→家では元気に見える→家で元気にしている自分で安心できる→大丈夫と思える→診察など頭にも浮かばない</p>

## 若年認知症の課題

藤本クリニックの事例より

退職後の生き場(社会生活からの突然の離脱)

受け入れできないままの退職→人のせいに思える→もう少しできただはずだと思う→自分の今がわからなくなる→次が考えられない。

詐めさせられた(まだ働ける)と思う→次の仕事を探す→ハローワーク通い→面接→採用→試用期間中の解雇的な扱い→不信感の増大→福祉的就労(仕事カフェ)的な場所への拒否感増大

## 若年認知症の課題

藤本クリニックの事例より

### 告知の課題(不安から希望へ)

自覚がある→診断結果の告げ方が曖昧→良い方向へ考えがち→服薬などの治療も必要と自己解釈→継続診療へつながらない

自覚がある→病名ばかりが先行する告げ方→人生の終わりとまで感じる→治療しても治らない、できることはないと思う→継続診療へつながらない

自覚がない→就労の段階でのサポート不足により、診断の結果でさえ人のせいになる→退職し、ストレスがなくなったから治ると思う→継続診療につながらない

## 若年認知症の課題

藤本クリニックの事例より

ケアの多彩性(サービス提供を断られることも少なくない)

いきなりの介護サービスのすすめ→なぜ必要なのかがわからない→介護という言葉の壁→身体は元気だ!→サービスは必要なし

介護サービスを受け入れた→参加したけどお客様状態→病気の話もしもしてくれない→言われたとおりに動くだけ→身体は元気だ!→二度と行かない

若年の人→難しい(誰と比べて難しいのか)→比べている相手が高齢者?→同じことを提供して例えば「いやだ」というのは若い人→高齢者も同じように感じていることに気がついていないだけなのに→結局、難しいとお断り

## 若年認知症の課題

藤本クリニックの事例より

### 家族、家庭内の課題

(遺伝や子供が未成年者であること)

家族は本人よりも後に気づく(職場)→いきなりの現実→強い落ち込み、でも気丈に振る舞わなくてはいけない→頑張るしかなくなる→頑張るゴールがわからなくなる→長期的に考えることができない

子供に伝えなくてはいけない→遺伝は?→正しい理解ができるい→今までと違ったように見える(葛藤)→遠巻きになる→距離ができる→無関心を装う(逃避)

## 若年認知症の課題

藤本クリニックの事例より

### 経済的な課題

知らない→聞けない→そのままになる→生活困窮

やりくりをする→イララが募る・不安も増大→生活の楽しみを削る→元気がなくなる・楽しみがなくなる→孤立する

## 若年認知症の人の主な支援制度

マニュアル参照(モデル事業で改定)

1精神障害者保健福祉手帳 障害に応じた税の軽減制度

2自立支援医療

通院医療費が概ね1割負担に軽減されます

3高額療養費

4税金の控除 障害者控除

5傷病手当金 休職4日目から最長1年6ヶ月まで支給

6障害年金 初めて医師の診察を受けた日から1年6ヶ月の課題

7生命保険、住宅ローン 高度障害特約・支払い免除

このほか「運転」の課題もあります

## 若年認知症の人の就労継続支援

高齢者との大きな違いはここにあります。  
ここへ支援を!

### 就労継続支援

雇用者側からの相談  
産業医、担当部署との相談  
同僚の支援  
職務の移行  
休職、退職時期の見極めなど

Aさんの場合:3年近いサポート  
Bさんの場合:上司、同僚の方とのカンファレンス  
子供さんや親へのサポート

平成23年度 若年認知症7名

藤本クリニック、もの忘れカフェの取り組み  
若年認知症の視点から



**平成11年**

**老人保健法デイケア・精神科デイケアとしてスタート**

**若年認知症の本人、家族が伝えてくれたこと**

身体を健康に保つことも大切なケア…便秘や尿閉  
エネルギーの発散も大切なケア…ずっとランニング  
何かをしてあげようと思わないことも大切なケア  
…一緒にいるだけ  
正直に前向きな話し合いをすることも大切なケア…ごまかさない  
環境を考えることも大切ケア…大きな音、テレビ  
症状を知り、必要な部分にだけ介助するということも大切なケア  
…半側空間無視

ここから取り組みが始まりました

**若年認知症の本人の言葉**

病気になったことはあきらめますが、これからのことはあきらめない  
どうしてこんな病氣があるの！  
まだやけにやったのに。

病気と知って、実はホッしました。うまいくかのいのは、自分が悪いのではなく、病氣のせいだと思えたから。  
同じ人は他にもおられますか？  
皆さんはどうしておられますか？

若年の方は、高齢の方に比べて、はっきりと  
言葉にされることが多いのですが、きっと、高  
齢の方も、同じようなお気持ちだと思います

**「若年である」という特徴を理解することから**

私たちがいつも心に持ち続けなくてはいけないことは、～若い人も、高齢の人も、軽度の人も重度の人も一人の人として同じ～というスタートラインに立たなくてはいけない（藤本クリニック理念から）

このことを理解せずに若年の人に関わることによって、若年の人は難しい、どうしていいのかわからないなどと抱えてしまい、具体的な関わりを行うことに支障や遅れを生じてしまうことになる

10年前に出会った若年認知症の方達は、「若年」であるという特徴はあるけれど、その前に一人の人としての関わりが必要とされているのだということ、そのことを胸に、「若年」であるという特徴に配慮した取り組みをして欲しいという言葉を私たちに下さったのでした。

**若年認知症の家族の言葉**

経済的なことを考えると、先が見えない…  
でも、本人は頑張ると言ってくれているから…私も…

今まで、単身赴任や転勤ばかりで苦労をかけてきた。  
それが原因なのだろうか…  
子供たちにはどのように話したらいいのか…  
思春期で難しい年頃なのです

やっと原因にたどりつくことができました。これからは、二人三脚で一步ずつ進んで行こうと思います。

若年の方は、高齢の方に比べて、経済的なことなどを中心に特徴的な課題があります。ただ、忘れてはならないのは、高齢の方の家族も、同じように多くの課題や悩みがあるということです

**若年認知症は認知症全体の課題を明らかにしている**

若年認知症の特徴的な課題はあるものの、高齢者には関係のないことだと思いますか？

若い人も、高齢の人も、軽度の人も重度の人も、本人のつらさや悲しみ、家族の心や体の負担は同じ

年齢や重症度などの違いに関わらず、たくさんの課題があることを知り、周囲にいる私たちにできることを考えて行きましょう。

**もの忘れカフェの作り方**



2004年頃

**若年認知症のケアを支える**

- 適切な治療とケアを提供する体制の充実(医療と福祉の連携)
- 本人や家族を精神的に支える(相談体制の充実)
- 本人や家族が集まる場所をつくる(本人家族交流会)
- 可能な限り本人が就労をつづけられる支援(仕事カフェ)
- 本人が社会参加できる支援(もの忘れカフェ)
- 経済的支援(支援制度の周知・配偶者の就労への支援)
- 若年認知症を親に持つ子供の会
- 若年認知症についてのケアの考え方
- 専門職の研修の機会

**もの忘れカフェ**

医学的な根拠と本人の言葉に認知症ケアの原則がある。

根拠があって、具体的である  
認知機能障害に対するケア  
疾患別ケア  
環境を考えたケア

想いを言葉にするために  
徹底して本人に聞く  
「自分で決める」を支える

藤本クリニックデイサービスセンターの概要  
もの忘れカフェ(認知症対応型デイサービス)  
1ユニット12人 × 3ユニット登録人数 90名～100名  
アルツハイマー型認知症 およそ60%  
レビー小体型認知症 およそ20%  
前頭側頭型認知症・脳血管性認知症 およそ20%  
若年性認知症(若年発症含む) 20%



### もの忘れカフェ

**もの忘れカフェ**

- ・もの忘れカフェができるまで
- ・プログラムをなす取り組み

**もの忘れカフェの作り方**

- ・自主的な活動に参加したりや社会参加を目指す

**もの忘れカフェを続ける**

- ・重は進行における自立活動などをできるか

**もの忘れカフェのやり方**

- ・老年から高齢者まで 軽度から高度まで

**もみじのもの忘れカフェ**

何も特別なことはありません。迷いながら、聴きながら、行ったり来たりしながら、それでも前へ進んでいます。

**中心的な活動である社会参加活動 10年間継続されています**

### 参加者が決めた具体的な活動と1年後の感想

**【制作活動】**  
「手芸・木工活動」 棚作り・本棚組み立て・すだれ作り・しめ縫つくり・他多数  
「調理活動」 七草粥・ういろ・ベビーカステラ・よもぎだんご・ケーキ・せんさい・他多数

**【知的活動】**  
絵画・音楽・合唱・ダンス・映画鑑賞・音楽鑑賞・写経・キーボード・他多数

**【身体活動】**  
運動・外出・烟作業など

**【社会参加】**  
清掃活動(駅周辺)・空き缶拾い・古切手・ブルトッピ・キャップ回収他多数

**【話し合い】**  
「病気について」・治療方法はあるか・病気をもう、あきらめたか?  
「ここに求めること」・自分たちがここに来ている意味・スタッフに求めるこ  
「振り返りとこれからのこと」・これから先のこと・これだけは言いたいこと 他多数

**病気の受容について**  
「忘れてても平気。病気だからと胸をはって言える」  
「病気になったことで仲間に会えた」

**活動内容について**  
「やりたいことがやれる」「自分たちで決めるから達成感がある」

**集団の年齢構成について**  
「同年齢が話はあうけど、同じ行動ができるなら年齢差があつてもいい」

### もの忘れカフェを始めた理由・約束事

受診の早期化に伴い、発症初期の若年、軽度認知症患者が多くなり、「居心地が良い」「自由に活動が選べる」デイサービスへの参加を説いても…

「物忘れを何とかしたい」「できなくなったことを何とかしたい」  
「仕事がためでも何か役割が欲しい」「社会とつながっていてほしい」

**もの忘れカフェの約束事**

**《活動内容の決め方》**

- ・活動内容は当日参加者が話し合って決める
- ・活動内容が決まれば、活動達成のために必要な役割や準備、時間配分や手順などを決める
- ・参加者同士で協力していくことの同時に取り組む（実行機能障害へのケア）

**《活動内容の記録の仕方》**

- ・書いて残す一活動の振り返りを行う
- ・1日の活動を個人ノートにも記入する
- ・写真、ビデオなどを多く残す（エピソード記憶障害へのケア）

**《スタッフの関わり方》**

- ・手がかりときっかけ作りに徹する
- ・どんなことも、極力参加者に任せせる
- ・関わるの引き際を見極め、境界線はスタッフが引く
- ・自主的な活動を邪魔しない

### 社会とつながっている

「自分たちも世間の役に立つことをしよう」という話になりました。きっかけは、作業所の方達が公園の清掃活動をされている姿を見たからです。

自分たちでできるボランティア活動はないかと社会福祉協議会に問い合わせてみました。

清掃活動、古切手回収、空き缶集め等があり、早速、回観板を作り、他のユニットにも参加を呼びかけました。

平成16年から始まったこの活動は、9年経っても受け継がれ、発展しながら取り組まれています。

### もの忘れカフェを続ける

### 「活動内容の決め方」について

**1. 面談での参加者の言葉**

- ・決めにくくなっているけれど、与えられたことをするのはいやだ
- ・当日にすべてを決めることが難しくなった
- ・朝、動き出す時に、何か決まり事があれば動きやすいと思う

**活動のきっかけとなる習慣つくり**

**若い人が多いからこそ、ぶつかりあっても話し合えた**

**2. 話し合いの結果**

- ・1年間行ってきた活動内容をヒントに、翌月の月間予定を事前の話し合いで決める
- ・月間予定をもとに、翌週の具体的な予定を前週に決める
- ・当日、変更事項を確認の上、最終決定を行い、活動する

### 病状進行に伴っての話し合いと工夫

**活動内容が決められない**

当にすべてを決めることが難しくなった・活動内容の振り返りで思い出せない活動内容の振り返りで思い出せない  
思い出しにくいが、思い出すことをやめたいとは思っていない  
活動内容の記録が書けない  
書きにくくなってきたが、今はまだ書き続ける

**活動記録や写真、継続している活動や月間予定など決まったものすべてを壁面に貼り、環境作りをした。  
記憶の補助具(メモリーエイド)を用意した。**

参加者と行動の動機付けとなることを話し合い、バラバラに存在した健康管理のためのことを一連の動きにした。それを毎回続けることで、活動のきっかけとなる習慣つくりができた。

### 「活動内容の記録」について

**1. 面談での参加者の言葉**

- ・書きにくくなってきたが、今はまだ書き続ける
- ・画数が多いと真っ黒に見えるので、見えやすくて、書きやすい方法はないか
- ・ノートとボードの間で視線を移している瞬間にわからなくなる

**若いからこそ、できなくなったことも、すぐにはあきらめなかった**

**2. 話し合いの結果**

- ・ボードに書く時に、画数の多い漢字は消らす
- ・ひらがなやカタカナを織りませ、文字も大きな字で書く
- ・見えやすい距離の場所に移動して書く
- ・書く範囲も、すべてを書こうとはせず、自分の判断で決める

## 「活動内容の振り返り」について

### 1. 面談での参加者の言葉

- ・思い出しにくいが、思い出すことをやめたいとは思っていない
- ・それをやめたら、何のためにここへ来ているのかがわからなくなる
- ・考え込む時間が増え、思い出せなくても今はまだ、あきらめたくない。
- だから、どうすればいいのかを一緒に考えて欲しい

何かを求めてここへ来ている  
という言葉

### 2. 話し合いの結果

- ・振り返りの時間を、昼食前と活動終了時の2回に分ける

記憶の補助具(メモリーエイド)を用意しました

## 「スタッフの関わり方」について

### 1. 面談での参加者の言葉

- ・援助は欲しいが、待って欲しい
- ・思い出せるようなヒントを言ってほしい
- ・できない時は伝えるのでその時まで待って欲しい
- ・手を出していいかは遠慮なく聞いてほしい

私たちも、もう一度、真正面から  
向き合います

### 2. 話し合いの結果

- ・自己決定の部分には入り込まない
- ・今まで以上に手がかりやきっかけ作りに徹する
- ・関わりの引き際を見極めることをいつも意識する
- ・真正面から、想いや意見を聽かせてもらう

## もの忘れカフェの広がり



## 私たちにもできる

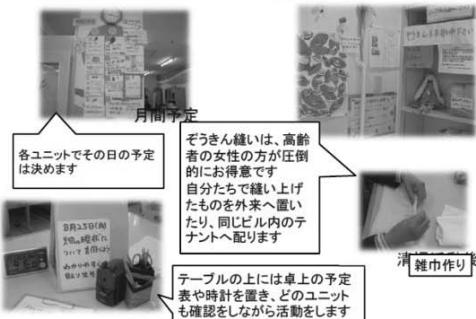


2007年9月  
それまで3つの部屋に分かれていた活動拠点をひとつにまとめるに向けて話し合い、すべての参加者が同じ空間の同じ時間の中で過ごしながら、ユニットとしての独自性を持ち、かつ、お互いの交流を深めることを新たな目標に決めました

幅広い年齢の人と交流する機会を作る  
→若年認知症の方へのサポート  
病気の進行具合の違いがある人同士が交流する  
機会を作る  
→病気の受け入れへのサポート・軽度認知症  
の方へのサポート

そのようなことを目的として、集団の力を活用しながら、受容のプロセスを支える環境作りとアクティビティを実施し、いずれ、クリニックのデイサービスから、他の事業所や地元のデイヘルサービスを展開できるよう連携をとる

## その後も様々な実践が繰り広げられます



## 様々な実践が受け継がれます



## 様々な実践が何年間も続きます



## もの忘れカフェの仲間を増やすために

認知症と診断された人たちが、  
認知症と診断された直後の人たちへのメッセージ



## もう一つのもの忘れカフェ



## 退職直後の支援としての仕事

休職中から退職直後の支援 社会的な職務を終え、わずかな収益を励みとして内職や軽作業をする居場所と社会とのつながりと仲間作り(仕事)

2011年10月から、若年認知症の人達が働く場として「ちょっと晴らし伸び伸びの会」を毎週一回水曜日の午後に開催しています。仕事探しは、内職を中心に入インターネットで検索し、次々に電話をかけました。「若年認知症の方たちが仕事をしようと集まっています。一度、話を聞いて下さい」上から順番に、あたって碎けろ！精神でかけていくと、いくつか目の電話の向こうで「一度話を聞きましょ」と返事が返ってきたのです。

## 仕事

玩具の部品の作成について依頼されることになり、その後、参加人数が増えたことで再度仕事探しを始めました。この時もまた、インターネットで内職を検索し、上から順番に電話でかけあつたのです。そうして、二つ目のマジックテープ製品を扱う仕事も受託することができました。



## 仕事

もちろん、在籍中のサポート、産業医とのやりとりなども行います



収益でピザパーティー

- ・仕事は、次のステップ(介護認定)へスムーズに移行できることをめざし、診断後の空白期間を作りません
- ・仕事は、若年認知症の方々を中心として、障がいに関わらず、共に働く場所であることをめざします
- ・仕事の賃金目標は「交通費を先ず稼ぐ」ことです。多くを求めないことから始めています

## 仕事とともに忘れカフェ

- ・仕事は介護保険サービスへつなぐためのステップです
- ・もの忘れカフェは介護保険サービスである、認知症対応型デイサービスです

違はそれだけであり、どちらも自分たちができるだけ決め、活動を行います。その活動は社会とつながりを持つことがいつも考えられ、本人たちから多くのメッセージが発信されています。

「若年も高齢者も軽度も高度もみんなが同じ」だと私たちに教えてくれます

## 若年認知症地域ケアモデル事業

委員メンバーは、家族、介護・障がい福祉関係者、地域包括支援センター、行政、医師会や産業医、さらに製薬企業や出版社など、開始時は20数名だった参加者がつながりが広がり、県内各地から40名ほどの参加をいただいています。

今年度は中小企業から大企業まで幅広く1000カ所を超える企業アンケートを実施し、その後、この事業の委員である医師を中心として企業への啓発活動を実施します。



## 資料参照

平成23年度地域ケアモデル事業実績報告書

委員会	組織形態	組織名	開催予定期間	会員数
内職・軽作業	内職・軽作業	内職・軽作業	月1回(土曜日)	会員登録者数: 8人
心療内科	心療内科	心療内科	月1回(土曜日)	会員登録者数: 1人
認知症のための会議の会	認知症のための会議の会	認知症のための会議の会	月1回(土曜日)	会員登録者数: 1人
方策セミナー	方策セミナー	方策セミナー	月1回(土曜日)	会員登録者数: 1人

▲個人による事業実績報告書

委員会	組織形態	組織名	開催予定期間	会員数
本人、家族 ピアカウンセリング	本人、家族 ピアカウンセリング	本人、家族 ピアカウンセリング	月1回(土曜日)	会員登録者数: 1人
アドバイザリーミーティング	アドバイザリーミーティング	アドバイザリーミーティング	月1回(土曜日)	会員登録者数: 1人
会員登録者数	会員登録者数	会員登録者数	会員登録者数	会員登録者数
▲企業訪問による事業実績報告書	▲企業訪問による事業実績報告書	▲企業訪問による事業実績報告書	▲企業訪問による事業実績報告書	▲企業訪問による事業実績報告書

▲個人による事業実績報告書

委員会	組織形態	組織名	開催予定期間	会員数
パワーホーム	パワーホーム	パワーホーム	月1回(土曜日)	会員登録者数: 1人
地域活性化会議	地域活性化会議	地域活性化会議	月1回(土曜日)	会員登録者数: 1人
会員登録者数	会員登録者数	会員登録者数	会員登録者数	会員登録者数
▲企業訪問による事業実績報告書	▲企業訪問による事業実績報告書	▲企業訪問による事業実績報告書	▲企業訪問による事業実績報告書	▲企業訪問による事業実績報告書

▲個人による事業実績報告書

本人、家族、私たちの動きが啓発になる…  
もっと多くの人のための、もっとオープンな場にするために  
NPOもの忘れカフェの仲間たちを設立しました

2013年8月11日



NPO事務局は藤本クリニック内に置き、本人や介護のため働けない家族への就労の場をつくることをめざします。また、精神障がいをお持ちの方や地域のみなさん、子供から学生さんまで、幅広く地域のコミュニティの輪を広げることをめざします。



## もの忘れカフェと仕事からつながったもの

精神障がいをお持ちの方の参加が始まりました。  
お互いの病気や障がいの理解ができずに…  
3ヶ月後に手紙を握りしめて復帰！

ご家族ボランティアさんが次々と…参加

住民さんは参加者よりも年上…老人会のみなさん

## 2.4.2 企業研修

若年認知症の人への就労継続支援に不可欠な当事者として企業が挙げられる。現職場での就労継続においても、就労継続支援事業で運営する「仕事の場」にとっても、企業の理解と協力は欠かせないことから、研修会事業の一環で、企業従業員向けに若年認知症に関する研修を実施した。

各年度の実施状況と、使用した教材（スライド）は以下の通りである。

**図表 13 平成 25～26 年度 企業研修の概要**

### ①実施状況

#### 【平成 25 年度】

	参加	講師 (認知症サポート医等)	実施企業
1 H26.2.10	36	藤井	検査会社
2 H26.2.17	22	堀出	銀行
3 H26.2.20	9	藤井	介護事業所
計 67 人			

#### 【平成 26 年度】

	本人	講師 (認知症サポート医等)	実施企業
1 H26.4.17	11	北野	介護事業所
2 H26.6.12	29	藤井	銀行
3 H26.7.15	31	藤本・奥村	大津市役所
4 H26.7.17	31	北野・藤本	運転免許センター
5 H26.8.21	25	藤本・奥村	社会福祉士会
6 H26.8.28	17	藤本	販売
7 H26.9.5	17	北野	守山図書館
8 H26.9.25	33	橋本	介護事業所
9 H26.11.6	約 20	藤井	介護事業所
10 H27.1.29	約 120	藤本	長浜市役所
計 約 340 人			

## ②研修内容（テキスト PPT）

図表 14 企業研修のスライド

滋賀県若年認知症地域ケアモデル事業  
企業研修

若年認知症の人と家族を  
医療と福祉が支える  
企業が支える

企業と本人と家族を  
社会全体で支える

若年認知症就労継続支援ネットワーク会議  
サポート医グループ＆事務局（藤本クリニック）編

本スライドの無断使用・無断引用を禁ずる

滋賀県若年認知症地域ケアモデル事業  
本日の研修は、若年認知症地域ケアモデル事業の  
活動として行っています

委員メンバーは、家族、介護・障がい  
福祉関係者、地域包括支援センター、  
行政、医師会や産業医、さらに製薬企業や出版社など、様々な職種、立場が集まっています

今年度は中小企業から大企業まで幅広く1000ヵ所を超える企業アンケートを実施し、その後、この事業の  
委員である医師を中心として企業への  
啓発活動を実施しています

### 認知症の定義

正常に発達した知的機能が持続的に  
低下して、複数の認知障害のために  
社会生活に支障をきたすようになった  
状態を言う

(認知障害の中でも記憶障害が中心となる症状が早い時期に出現することが多い)

### 認知症とは

原因を正しく知る  
認知症には「原因となる病気」があり、認知症特有の「出来事自体を忘れる」「時間や場所がわからない」などという症状となって現れてきます。

原因は一つではない  
原因は一つではなく、ご本人からの訴えは似ていたとしても、それらを引き起こす原因是様々であり、治療や関わり方も違います。

原因を正しく知ることが、認知症への理解の第一歩です

### 認知症とは

以前は「認知症に治療はない」と  
と言われていましたが、  
今は違います。

早期に発見できれば  
治る病気がある

治らなくてもできるだけ  
安定した生活を送るために役立つ治療やケアがある

「どうせ治らないのだから、診断を受けても仕方がない」ではなく！

診断を受けることは正しい治療とケアの方法を知るうえで大切

### 「認知症によるもの忘れ」と 「加齢によるもの忘れ」の違い

JAAD

記憶の帯  
体験の流れ  
抜け落ちる

記憶の帯  
体験の流れ  
健康なもの忘れ

日本臨床新報 No.4074 | 2002年5月25日

### 診察や検査の流れとは

問診  
本人の気持ちや家族が抱える不安や悩みをお聞きします

画像診断  
CT/MRI  
脳の萎縮の程度や脳梗塞の有無などを調べます

血液検査  
認知症の原因となる甲状腺機能の低下やビタミン欠乏などを調べます

神経心理テスト  
「今日は何月ですか？」などの質問をして点数をつけています

診断ができます！！

### 「認知症によるもの忘れ」と 「加齢によるもの忘れ」の違い

JAAD

認知症によるもの忘れ

- 体験全体を忘れる
- 新しい出来事を記憶できない
- ヒントを与えられても思い出せない
- 時間や場所などの見当がつかない
- 日常生活に支障がある
- もの忘れに対して自覚がある

加齢によるもの忘れ

- 体験の一部分を忘れる
- ヒントを与えられると思い出せる
- 時間や場所など見当がつく
- 日常生活に支障はない
- もの忘れに対して自覚がない

### 認知症の主な病気

**アルツハイマー型認知症**

**脳血管性認知症**

**レビー小体型認知症**

**前頭側頭型認知症**

**若年認知症という病氣があるのではない**

### 若年認知症

若年認知症とは65歳未満で発症する認知症をいいます。高齢者の認知症と、病理学的に違いがあるわけではありませんと言われていますが、若年認知症は年齢が若いため、社会的、家庭的問題を多く抱えており、就労の問題など、多くの支援が必要とされています

他の疾患と間違われやすい

若いがゆえに、別の病気だらうと判断されがちです。少しでも早く、専門医で診断を受け、治療を開始することが大切です

うつ病との鑑別は大切

**原因となる病気が多彩です**

アルツハイマー型認知症だけではなく、アルコール関連障害、ハンチントン舞蹈病など、聞こなれない病気が原因となっている場合があります

### 認知症の症状

「若年認知症ってなに？」のリーフレットをお開き下さい

### 若年認知症の特徴

<認知症高齢者との違い>

- 発症年齢が若い
- 男性に多い
- 初発症状が認知症特有でなく、診断しにくい
- 異常であることには気がつくが、受診が遅れる
- 経済的な問題が大きい
- 主介護者が配偶者に集中する
- 本人や配偶者の親などの介護が重なる
- 家庭内での課題が多い  
(就労、子供の教育・結婚等)

### 若年認知症の課題

1. 医療機関への受診・診断の遅れ
  - いったい何が起こったのか？
  - 何の病気なのかわからない？
  - 若いから認知症だなんて思いもよらなかった！
  - 急いでいるのでは？不真面目な態度では？

### 若年認知症の課題

2. 社会的役割・生きがいの喪失
  - 離職・退職
  - 家族での役割
  - 友人の喪失
  - 趣味の喪失
  - 社会活動からの離脱
3. 経済的基盤の喪失
  - 職場での配慮で、仕事を継続出来ることはまれ
  - 再就職はほぼ不可能である
  - 直ちには障害年金は受給できない
  - 診断が遅れば益々受給が遅れる
  - 妻が認知症になれば夫が介護に時間を取られ、十分な就労が出来ない
4. 若年認知症のためのサービス体制
  - 社会福祉資源のほとんどは高齢者向けである
  - 若年認知症向け事業は少ないのが現状である

## 若年認知症の本人の思い

- 1) 病気になったことはあきらめるが、これからのこととはあきらめない。
- 2) 病気と判り実はホッとしている。上手く出来ないのは自分が悪いのではなくて、病気のためだったと思えたから。
- 3) どうしてこんな病氣があるのだ！まだまだやりたい事があったのに！
- 4) 同じ病氣の人は他にも居るのでしょうか？  
その人たちはどうしているのでしょうか？

## 若年認知症の家族の思い

- 1) 経済的なことを考えると将来が予想が着かないが、本人が頑張るといっているので、私も頑張らなくてはと思う
- 2) 今まででは単身赴任や転勤ばかりで家族に苦労を掛けて来たからそれが原因なのだろうか？
- 3) 子供たちに病氣のことをどう話せばいいのだろうか？  
思春期なので難しい年頃なので心配である
- 4) 原因が判ったので、これから二人三脚で頑張る

## 若年認知症の人への就労継続支援

なるべく長く、仕事が続けられるために…

雇用者側とのやりとりが重要

- ・産業医・担当部署との相談
- ・同僚の理解と支援・同僚に対しての支援
- ・職務の移行
- ・休職・退職時期のタイミングの見極め

現実には、診断直後に退職をすすめられることがある

## 若年認知症の人への主な支援制度

- 1) 精神障害者保健福祉手帳
- 2) 自立支援医療
- 3) 高額療養費
- 4) 税金の障害者控除
- 5) 傷病手当金
- 6) 障害年金
- 7) 生命保険

制度を知り、その制度を  
うまく活用することも私たちにできる支援のひとつです

若年認知症は認知症全体の課題を表している

若年認知症の人も、高齢者の認知症も症状の軽度の人も重度の人も、本人の辛さや悲しみや、家族の心理的肉体的負担は同じである。

## 認知症の人と家族を地域で支えるために

特別なことではなく、認知症を正しく理解し、偏見を持たず、本人や家族を見守ることから始まります

誰でもなる可能性のある病気だからこそ、自分たちの問題であると思って下さい

認知症の人と家族を地域で支えるために必要なことは、“地域力”皆さんの力です

## 参考文献



若年認知症ってなに?



若年認知症支援マニュアル

認知症でお困りですか？かかりつけ医のギモンにお答えします  
2013.11.1 株式会社南山堂  
「若年認知症の患者さんに対してどう援助・指導を行ったらいいか教えて下さい」藤本直規

家族看護 2013.2.25 日本看護協会出版会  
「若年認知症の人と家族へのケア～支持的精神療法の実際～」奥村典子



認知症に関するることはもちろんですが、若年認知症についてご心配されているご本人・ご家族・専門職・住民、企業の方など、いつでもご相談下さい

連絡先  
医療法人 藤本クリニック内  
電話 077-582-6032  
電話 090-7347-7853

## ②研修内容（テキスト PPT）

企業研修についての評価について、研修受講者からのアンケート回答から整理する。

「本日の研修をお聞きになって、認知症に関するイメージが変わりましたか」の問には、ほぼ全員が“良いイメージに変わった”と回答し、「本日の研修が仕事上や生活上で役立つと思いますか」の問にも、何らかの形で“役立つ”と答える人が大半を始めた。企業に出向いて研修を行うことは、若年認知症についての啓発活動として有効な手段の一つだと認識できた。

また、自由記述欄では、“当社では障がい者の雇用も進んでいますが、若年認知症についてはまだまだ理解されていない部分があると思います。また、取引先に対する理解も今回のお話を聞いて認識することができました”、“認知症のお客様への接し方の研修などもあれば受講したいと思いました”、“店頭で対応する際に認知症の疑いのあるお客様もいらっしゃるのでとても参考になりました”など、直接仕事とも結びつけて考えられる記述も多く、企業研修の必要性は高いと感じられた。

企業は、それぞれの業務の中で若年認知症と関わる機会が増えていくであろうと企業活動の場面のみならず、若年認知症の人および家族に対する重要な支援者でもある。若年認知症地域ケアモデル事業の1つの柱である研修会事業において、企業研修を行ったことは大きな意義があったと感じている。

### 2.4.3 専門職研修（H26.11.13）

研修会事業では、より直接的・実践的なスキルアップが求められる、ケアの現場にいる専門職に対する専門職研修も行った。若年認知症の人および家族にとっては、地域の理解、行政のけん引力、企業のバックアップとともに、現場の専門職による質の高いケアが不可欠であるからである。

専門職研修では、現役の家族に体験談をお話しいただいたことで、多くの受講者が、より身近なこととして受け止めることができ、続いて行ったグループワークでは、課題の整理を進める中で、受講者自らの気付きとして、“認知症ケアの底上げが若年認知症の課題解決につながる”という方向性が導き出された。

若年認知症と高齢者認知症の“違うところ”、“同じところ”、それぞれに対するケアや支援において“工夫できるところ”、“気を付けなければいけないところ”、など、いずれも、受講者の次の日からの職場すぐに取り組めることに直結するものとして、今後に向けて、認知症ケアの底上げにつながることと考えられた。

## 2.5 若年認知症就労継続支援ネットワーク事業

若年認知症就労継続支援事業を通じて、医療機関、介護サービス事業者、障がい福祉関係者、行政、民間企業等が若年認知症の人を支える仕組み作りについて検討する枠組みとして、若年認知症ネットワーク事業を位置付けた。各事業を有機的に関連付け、必要に応じて役割分担や成果の相互活用、さらには全体の進捗確認を行うには、事業全体を見渡す枠組みが必要と考えたためであった。

**図表 15 5 事業の関係性(概念図 : 再掲)**



### 2.5.1 若年認知症支援ネットワーク会議（小委員会）

若年認知症支援ネットワーク会議では、5つの事業の関係者全体で、若年認知症地域ケアモデル事業の考え方や方向性の共有を行うとともに、中間年度では、各事業の成果の確認、最終年度は、取りまとめに向けた検討などが行われた。また、初年度（平成24年度）は、4つのテーマ（本人、家族、啓発、医療）についての小委員会を設置し、より詳細なグループ討議を行った。

以下では、各会議の議事項目、平成26年度の会議については議事抄録も併せて整理する。

#### 【平成24年度】会議4回（小委員会3回）

##### 第1回 H24.5.17 (26名)

- ・事業目的の説明
- ・具体的な事業運営について
- ・現状についての意見交換

※若年認知症に関する課題を整理（①就労継続、②家族支援、③啓発活動、④医療、⑤ケア）

##### 第2回 H24.7.26 (23名)

- ・就労支援事業・本人および家族支援事業の実施報告
- ・高島市の取り組みの実践報告
- ・整理された課題の小委員会方式での検討
- ・若年認知症研修会について

### 第3回 H24.11.22 (23名)

- ・若年認知症研修会の振り返り
- ・就労支援事業・本人および家族支援事業の実施報告
- ・小委員会の報告（支援マニュアルの改訂について）
- ・守山市の取り組みの実践報告（企業向けアンケート調査結果）※2.5.2に詳細

### 第4回 H25.2.28 (29名)

- ・平成24年度活動実施報告（5つの事業について）
- ・平成25年度の事業活動の方向性について

※小委員会は、それぞれのテーマに分かれて、個別テーマの検討を深める目的で各3回を実施

## 【平成25年度】会議3回

### 第1回 H25.6.27 (39名)

- ・若年認知症実態調査報告（県庁）
- ・平成24年度活動実施報告
- ・平成25年度の事業活動について  
(企業アンケート、スケジュール、マニュアル改訂版、就労支援事業、本人・家族支援事業、「もの忘れカフェの仲間たち」設立)

### 第2回 H25.10.24 (45名)

- ・若年認知症支援マニュアル改訂版の発刊
- ・就労支援事業、本人・家族支援事業等の報告
- ・企業アンケートの経過報告と今後予定
- ・グループディスカッション（7つのグループでアンケート結果について）

### 第3回 H26.2.27 (33名)

- ・就労支援事業、本人・家族支援事業等の報告
- ・企業研修について（テキスト・教材、研修内容、アンケート、今後の方向性について）
- ・高島市より（実態調査報告、支援検討会について）
- ・平成26年度の予定について  
(若年認知症報告会、若年認知症研修会(専門職対象)、市町の後方支援、ネットワーク会議、報告書の作成)

## 【平成 26 年度】会議 2 回

### 第 1 回 H26.6.26 (45 名)

- ・平成 25 年度若年認知症地域ケアモデル事業の報告
- ・平成 26 年度の事業計画について
- ・就労支援「仕事の場」ブランチ作りについて
- ・各参加者からの情報提供と意見交換

#### 1 平成 25 年度若年認知症ケアモデル事業の報告

- 事務局から、平成 25 年度の「若年認知症ケアモデル事業」の実施状況についての報告が行われた。
- 「仕事の場」については、13 名の参加者中 3 名が介護保険へ移行できたこと、本人および家族支援として「交流会」を 6 回実施したこと等について報告があった。
  - 当該年度内に 3 回実施された「若年認知症企業研修」について、講師を担当した藤井医師および北野医師から実施しての感想等の報告があった。
    - ・研修後に提出されアンケートの内容を次の研修につなげていくことが課題。なかなか自分の問題として捉えてもらえないで、何回も研修会を実施して、自分たちの問題と捉えてもらえるようにしたい。
    - ・事務局で作成した資料をもとに説明したが、企業の内容によって資料をアレンジすることも必要。
  - 今後 8 事業所での研修を計画している。
  - 事務局から、2 年間のケアモデル事業の取り組みについて、日本認知症ケア学会での発表原稿をもとに報告が行われた。
    - ・藤本理事長から、仕事の場の取り組み・経緯・目的・運営方法・スタッフの工夫などについてまとめの説明があり、初期の方の認知機能のケアの必要性・大切さ、企業研修で介護事業所へ行く意義等についての話があった。
    - ・事務局からは、「仕事の場」にボランティアで参加してくれている人たちが共に仕事をすることにより、病気の症状に実際に触れ、理解を深めておられること、同じ仕事の場づくりが長野県や愛知県でも始まることが報告された。

#### 2 平成 26 年度の事業計画について

- 事務局から、平成 26 年度若年認知症ケアモデル事業計画について報告が行われた。
- 就労支援事業は、県のケアモデル事業が終了しても、継続して実施していく。

#### 3 就労支援「仕事の場」ブランチ作りについて

- 高島市の古谷保健師および本多医師から、高島市の取り組みについての報告が行われた。
- 昨年実施した若年・軽度・若年性の脳卒中の人たちの実態調査の結果をもとに、医師会・介護保険事業所・NPO・社協の皆さんに集まってもらって、何ができるかについて話し合った。
  - その結果、若年の人や今、居場所のない方のための居場所づくりが必要で「仕事がしたい」という声を大事にすることが確認された。
  - 若年の人の居場所づくりに動き始めた。地域の問題を解決するためのアイディアを市民・企業から集め、行政とともに進めていくので協力を呼びかけたところ、NPO 法人「元気な仲間」が手を挙げてくれた。
  - NPO・行政・社協の皆さんに協力してもらい、「町の縁側居場所づくりプロジェクト」を立ち上げ、地域共生の場づくりを進めていく。

- その扱い手づくりの講座が6月から始まり、25名ほどの人が参加している。9月にはプロジェクト会議を開催し、10・11月頃から本格実施していく計画。  
報告を受けて、出席委員に発言を求めた。
- 働く気がないのではなく、軽度の発達障がいや家庭環境で働くことのできない人たちの就労を支援している。  
(地域若者)
- 若年の人だけでなく制度のはざまにいる人など、いろいろな人が働くことを考えていかねばならない。  
若者サポートステーションとコラボで話し合いを始めている。(社会就労支援センター)
- 自分が認められる場所が居場所だと思う。仕事を通して力を出せることが広がればと思う。  
(働き暮らし応援センター)
- 5月に仕事の場を見学し、「仕事にきやんせ」事業計画を作成、10月から活動を始める。(長浜市)
- 市内にある空き事務所を活用した「コミュニティ広場」を計画している。(大津市)
- デイサービスとは別に就労の場をデイの横にできればと思っている。NPOだけでは仕事の場をつくるのは困難なので行政に協力を求めたい。(ケアマネ)

#### 4 各参加者からの情報提供・意見交換

- 親を介護している独身男性が参加するなど、交流会参加者も時代とともに変わっている。  
家族も変化に対応していくことが必要。最近介護をめぐる動きで気になることが多い。特養への入所が要介護3以上に変わるのは介護経験に照らせばとんでもない話。お泊りデイに過剰な規制をかけられて利用ができなくなるのはとても困る。(家族)
- 仕事の場には、分かりやすい作業手順・枠組みがあり、参加することにより安定した人も多い。精神障がいの人がそこに加わることもとてもプラスになるだろう。(医師)
- 若年や障がいの人が一緒にいる場のイメージがつかめない。サポート医として勉強していきたい。(医師)
- 若年は、行政だけでなく、NPO・地域・多職種との連携があり、精神障がいとは違うことを実感した。(行政)
- 介護保険の改訂で要支援の通所が市町村事業になるので、その人たちの居場所づくりを進めている。  
介護離職の問題にも取り組んでいかなければならないと思った。(行政)

#### 第2回 H27.2.5 (43名)

- ・若年認知症地域ケアモデル事業 平成24~26年度 取り組みの概要
- ・第6回全国若年認知症フォーラム開催報告  
(企業研修について、「仕事の場」ブランチの活動について、3年間を振り返って)
- ・来年度実施予定の事業内容について
- ・各参加者からの情報提供と意見交換

#### 1 若年認知症地域ケアモデル事業（平成24~26年度 取り組みの概要）

- 奥村典子氏から、3年間の取り組みの概要について報告がなされた。
- 「仕事の場」について
- 県外・県内の「仕事の場」ブランチについて
- 守山市の「仕事の場」の最近の状況について(働き・暮らし応援センター「りらく」との連携・若者サポートステーションからの参加等)
- 本人・家族交流会、実践報告事業、研修会事業、ネットワーク会議について

## 2 第6回全国若年認知症フォーラム開催報告

報告に先立ち、フォーラムで上映された3年間の活動をまとめたDVDを視聴した。

厚労省の翁川氏が実施した全国一斉のアンケート調査によれば、若年認知症に対する対応は滋賀県が全国でトップであった。

(企業研修について)

- 企業研修は産業医会からのアドバイスを受けて県内1087社の企業に対するアンケートの結果を見て実施した。サポート医・かかりつけ医が講師をつとめているが、みなさんの連携があつて実施できた。
- 認知症について地域の人は知らないし、地方に行けば偏見がある場合もある。若年認知症について知らない人はさらに多い。草の根方式でがんばっていきたい。
- 認知症についてまだまだ差別があるのも現実。そこも踏まえて研修に取り組んでいく。
- 高齢者の認知症については認識されてきているが、40～50歳でなることもあると言うと「びっくりした」「はじめて知った」などの声が返ってくる。こういうことを伝えていくことが必要。企業研修を受け入れているところは関心を持っているが、それ以外の所に若年認知症について周知していくことが必要。

(「仕事の場」ランチの活動について)

- 大津では箱折り・資料の袋詰めをしてもらっている。3名が参加。若年の人はない。周知しきれていないので行政と協力していきたい。こういう場のことを知つてもらうことが大切。行政として家族支援などの後方支援でつなげていきたい。
- 長浜では老人ホームながはまの施設の中で実施しているが、これからは地域に目を向けた方法を考える。交通の便が悪く来所してもらうのが困難と地域的な問題を抱えている。家族の送迎がないと参加できないことに対処するために地域包括・CMからの声掛けなど連携していきたい。包括ではサービスにつながらないケースも担当している。自分たちも一員として参加したい。
- 高島では保健師としての役割と仕事の場を提供しているNPOとしての役割を明確にして一緒に取り組んでいる。内職や参加人数など行政としてもしっかり支援したい。

(3年間を振り返って)

- 新オレンジプランは各地で注目されている。障がいを持つ人にとって居場所があり、(地域の中で)役割があることが大事。
- 若者サポートステーションではニート・フリーターの支援もしている。働きたいけど働けない、引きこもりの方が多い。昨年10月から仕事の場に参加させてもらっている人がいるが、認知症の方・ボランティアの方と一緒に交わることで地域とつながっていると実感している。
- 以前は若年認知症の人を支えてくれる所がなかった。介護生活の中で周囲からもうダメと言う声も聞こえていた。今は若年に対する認識が広がって、しっかり話を聞いてもらえるようになった。近くに働く場があることを嬉しく思っている。
- 2年前のフォーラムのリレー報告ではアンケートの結果はこうでした、問題点はここだからこんなことをしたいという内容だったが、3年間の活動の結果今回は実際にしていること、そこからの発見等文字通りの実践報告になっており、アンケートを見てもリレー報告への関心が一番高かった。志のある人たちがつながり、実践されていることがここから始まっていることがすごいと思う。医師の先生方の献身的なご努力で企業研修が実施され、多くの人に若年認知症のことを知つてもらえる活動もすごいと思う。我々家族もただ何かをしてほしいと望むだけではなく、自分で何ができるのかという視点を持つことも必要。地域への情報発信もその一つで、一緒に散歩することで穏やかな様子を見つめることで「認知症になつたら絶望。死んだ方がマシ」と思つている人はいないと思う。

### 3 来年度実施予定の事業内容について

奥村典子氏より、資料3に基づき27年度の取り組み予定について報告が行われた。

- 若年認知症ケアモデル事業の継続・充実に向けて、27年度は「仕事の場」や「心理教育」を研修の場として活用していく予定。本人・家族交流会や企業研修なども引き続き充実を目指す。

### 4 各参加者からの情報提供・意見交換

- 彦根市…介護家族のつどいへの若年の参加者は少ない。企業向け研修も取り入れたい。
- 米原市…地域での認知症への取り組みをしていきたい。認知症の方自身と一緒にやっていく。
- 高島市(社協)…社会的孤立・若者・ひきこもりの方の支援、元気さんのサポートを行う。
- 滋賀県…モデル事業の継続と充実を図る。総合支援対策、切れ目のない支援に関係者と連携して取り組む。医療・介護・福祉・ケアの方法を考える。人材の育成・就労活動の支援も。
- 東近江…若年への取り組みはこれから。若年についての啓発、企業への啓発などに取り組む。
- 湖南市…認知症対応型家族会を初めて開催。展開していきたい。
- 野洲市…認知症について分からない人は多い。周知して課題を整理する。
- 守山市…企業研修の充実・家族支援・認知症カフェ・もの忘れ相談の実施。
- 企業…薬物治療だけでなく何かできることを考えていきたい。